

最終回 市民ワークショップ

「中条地区の将来像と公共施設の在り方」

をテーマにグループ討論を行いました

10月24日（木）中条会館で、最終回となる第3回「中条地区の公共施設を考える」市民ワークショップを開催しました。

前回の内容を振り返った後、活発なグループワークを行い、各グループからまとめの発表がありました。信州大学工学部の寺内教授からの講評、住民自治協議会の和田会長のあいさつ、長野市の望月公有財産活用局長から御礼のあいさつの後、参加者全員で記念撮影を行い、中条地区のワークショップは幕を閉じました。関係者の皆さま、ありがとうございました。



3回のワークショップでは、信大 寺内研究室の学生も交え、地区の将来像や自分たちにできることなどを話し合い、グループごとの公共施設の在り方や利活用案を、短い時間の中でまとめていただきました。（詳細は次ページをご覧ください）

今後、具体的な再配置等に向けた検討につきましては、今回のワークショップでいただいたご意見等も参考に、地域の皆さまや、広く市民の皆さまのご意見をお聴きしながら協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

今回のワークショップは、中条地区住民自治協議会のご協力のもと、公募及び地区内からご参加いただいたメンバーで、熱い討論を重ねていただきました。

市民ワークショップや公共施設マネジメントに対するご意見、ご要望などありましたら、遠慮なく下記までお寄せください。



ワークショップの資料は長野市ホームページに掲載しています
（市民ワークショップのページ）
<https://www.city.nagano.nagano.jp/site/koukyou-ws/>

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話：224-7592

中条支所 電話：268-3001





各グループのまとめの概要をご紹介します

A グループ

中条からN a k a j o ^ ~ Welcome to Nakajo ~

まずは中条に来てもらい、滞在→移住につなげたい。そのための仕組み作りに公共施設を活用する。

《効果》

- ・体験するために訪れる人が国内外共に増える → リピーター、移住者

《課題》

- ・情報発信不足
- ・施設を使いたい人とのマッチング
- ・市施設の利用に制約がある

《自分たちにできること》

- ・空き家や施設の情報の集約・発信
- ・名刺にQRコードを入れて配る
- ・中条ファンカードを作る



【その他意見等】中条ファンカードの活用。PR方法は今どきのアイテムを活用し、住民一人一人がQRコード入り名刺を持つなど工夫を。情報の共有・発信が大切。原体験が出来ることもPR。芸術家を誘致。

B グループ

【中条らしさでイメージUP⇒施設を使った販促創出】

中条らしさの代表格「虫倉山」「山姥伝説」をもっとPRし、中条のイメージUPを図る。PR拠点には公共施設（やきもち家、道の駅、支所、社会就労センター等）を活用。イベント開催や山姥おやきの物販などを公共施設で行い、中条に販促を創出する。

《効果》

- ・共通した焼印のおやきを作りイメージUP。統一感や一体感が出る。
- ・おやき、やきもち家のイメージUP。
- ・地元の人の中条を知るきっかけに。

《課題》

- ・焼印を作れるか
- ・やきもち家や道の駅との協力
- ・一体的にPRできるか



《自分たちにできること》

やきもち家等と一緒にPR団体を作る。チラシ・ポスターを作成してイベント等で配布。
山姥の焼印を作る。おやきに押印して統一感やイメージUPを図る。
市内事業者にもPRを依頼。

【その他意見等】PR拠点 ①道の駅 ②やきもち家 ③社会就労センター を活用
PR・イベントを通じて中条の魅力を伝え、イメージUP。ゆくゆくは、地区外から人を呼び込むことにつなげたい。

C グループ

施設を連携した活性化

やきもち家・音楽堂・道の駅周辺を連携させて、魅力的なものとし、人を呼び込み活性化につなげる。

《効果》

- 利便性の向上
- 地区外から人が来る
- 農産物等を販売できる
- 地区の住民が集まる

《課題》

- 後継者不足
- 移動手段の確保
- 高齢化

《自分たちにできること》

- 特産物をつくる



【その他意見等】 やきもち家・音楽堂・道の駅周辺は、連携ができていない。これらの施設を連携させて人を呼び込むようにしたい。魅力を向上させれば、他の地区から人だけではなく、農産物もくる。他の地区とも連携ができる。道の駅で、一事業者に任せるのではなく、複数者が農産物を販売する。

D グループ

高齢者がいきいき暮らし、若者を呼びこむ！！

「運動でいきいき」…地域の誇りである虫倉山エリアを活用
 「仕事でいきいき」…農産物加工のできる施設の統廃合と、誰でも使いやすく
 地域に若者の活力を取り戻す…地域の「明るい未来」と存続は若者の存在が重要。若者が地域に入りやすくするために自分達でできることを考えていく。

《効果》

- 若者がうらやむほどいきいきと
- 畑仕事や除雪を若い人に教える
- 若い人が戻ってくる

《課題》

- しきたりを伝えられない
- 若い人が出ていって戻ってこない

《自分たちにできること》

- 愛着あるエリアで（虫倉山）
- 自分たちも楽しみながら
- 若者とのつながりもつくる



【その他意見等】 老人だけが元気でもしょうがない。「高齢者のいきいき」「明るい地域の未来」について改めて考えてみると、若者の存在はなくてはならないもの。

Eグループ

中条が持つ地産地消の魅力 ～オリンピック道路を中心に～

オリンピック道路沿いにある公共施設を中心に、人で賑わう中条を目指す。
 「道の駅」と「わんさか市」の統合。民間の食堂「つくし」とも連携。
 特産品開発センターで地元産加工品の製造を活発に。食の魅力伝えるツールへ。
 新規施設ジビエ加工センターの利用促進。

《効果》

- 利用者の増加
- 地域活性化
- 観光振興

《課題》

- 施設間連携、流れがない。
- 情報発信力の弱さ
- 生産から販売までのシステム不明瞭
- 担い手はどこなのか

《自分たちにできること》

- 拡販。中条産の加工品、農産物を広く知ってもらう事で魅力の発信につなげる。イベント参加人口の拡大も狙いたい。



【その他意見等】 まずは出来ることから。所属しているサークルの人たちと出来ることをやってみよう。オリンピック道路から見える北アルプスの眺めは最高。来なくては分からない魅力を知ってもらいたい。

参加者アンケートの主な内容をご紹介します

《ワークショップに参加して公共施設に対する考え方が変わったご意見》

- ◆情報発信は自ら行うことから
- ◆自分だけでなく多くの人の意見・考え方があり、利用の仕方も今後は参考にし、中条地区のPRに繋がりたい。
- ◆施設を複合し活性化を行う。
- ◆再配置や統合なども必要だが、今ある資源を有効活用していくべきだと思いました。
- ◆異なる世代、立場の人と同じチームになって、様々な考え方を聞くことができ、意識が変わった。
- ◆高齢化、人口減少により公共施設の見直しが必要。

《その他意見、感想等》

- ◆3回のワークショップありがとうございました。今後に活かせる努力をしていきたいと考えます。ご協力ありがとうございました。
- ◆WSで終わらず今後に繋げて行って欲しいです。
- ◆これからも具体的な行動ができるまで続けて欲しいです。
- ◆これで終わらずここからがスタートとして検討頂きたい。

【信州大学工学部寺内教授の講評】

3回目となり議論が熟していました。その中で一番聞こえてきた意見としては「やきもち家」や「音楽堂」がある虫倉山エリアだったと思います。また、せっかくある資源・施設の連携や情報共有による有効利用という意見もありました。



中条地区の施設への課題は、道沿いの施設とそれ以外の施設という形で問題点ははっきりしています。各施設に対し集落ごとの問題ではなく、中条全体の問題と捉えている傾向があり、全ての方が中条を好きという雰囲気を感じます。世代間の意見の相違もあまり感じないので、ワークショップで出たアイデアを具体的に動かす体制がすでにあるのではないのでしょうか。“どうやったら活動が出来るか”ということに大学・行政として寄与できないかと感じました。

【住民自治協議会 和田会長あいさつ】

いろいろな世代の男性、女性それぞれの意見が聞けてありがたかった。道の駅、わんさか市、やきもち家、音楽堂という施設名が全グループから出ていました。上手く意見をまとめていけば地域活性化につながるように思いました。空き家を利用する人を増やしていきたいという話など、中条地区として、今後につながるヒントや温かい意見を聞けました。課題は沢山ありますが、先生から意見を聞くなどしていければ良いと思います。本当にありがとうございました。



【望月公有財産活用局長から御礼のあいさつ】

何かとお忙しい夜の時間帯に、計3回のワークショップにご参加いただきましたメンバーの皆さまに深く感謝を申し上げます。



人口減少や少子高齢化など、公共施設をとりまく現状と、中条地区の活性化や多世代交流などを見据えた、大変熱心なグループ討議をいただきました。

各グループからいただいたご意見も参考にさせていただき、中条地区にある様々な公共施設の在り方、将来的な再編・再配置を検討してまいります。

中条地区のワークショップ開催に御協力いただいた皆さまに、改めて厚くお礼申し上げます

